

7

検索サイトの使い方

(^^) 情報検索

インターネット上には多くの情報が蓄積されています。しかし、Internet Explorer 等のブラウザソフトを開いても、そこに自動的に情報が飛び込んでくるものではないという点が、テレビ等のメディアと大きく異なる点です。そのため、何が自分に必要な情報かを把握し、適切な情報を取捨選択する方法を身に付けるということが大切になります。

インターネット上で必要な情報を得ようとする場合に利用するのが検索サイトと呼ばれる Web サイトです。検索サイトは、インターネット上に存在する膨大な情報を収集し、分類整理してくれるサービスです。その方法にはさまざまなものがありますが、ロボット型と登録型の2種類が主流となっています。

ロボット型は、検索サービスのコンピュータが、インターネット上のサーバにアクセスして、その中の Web ページを順次参照して、自社の検索用のデータの中に情報を蓄えていくものです。その結果、ロボット型検索サイトには、さまざまな Web ページの情報が登録され、多くの情報を得る機会に恵まれます。しかし、あくまでもキーワードで収集しているため、その内容までは保証されておらず、内容が乏しいものや目的とは関係のないものも同時に多く提示され、必要な情報を持つ Web ページを探すまで時間がかかってしまうことがあります。

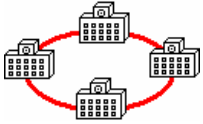
登録型は、登録を希望する人が目的の Web ページをどのカテゴリーに登録するかを申請します。申請を受けた検索サービス会社は、登録するのにふさわしい内容かどうかを調べてから、該当するカテゴリーに登録します。そのため、ロボット型検索で検索するより Web ページの数は少ないのですが、目的に合った内容のものが多いいえます。

(T-T) 有害情報

インターネットからはさまざまな情報を取り出すことができます。しかし、そのすべてが正確で有用な情報であるとは限りません。個人が運営している Web ページでは、第三者の点検も受けずに事実誤認のまま載せられている例もあります。生徒は、これらの不確実な情報を信用してしまうこともあります。また、勘違いやミスではなく、明らかに何らかの情報操作を行うためにデマをネット上で流している者がいるということにも注意を払う必要があります。特に掲示板などの書き込みを読む場合においては、この点について生徒に十分な注意喚起が必要です。

検索サイトの実習で、生徒たちの要望に応えて、芸能人やアイドル、タレントの名前で検索するときには注意が必要です。ロボット型検索サイトで検索した場合、それらのアイドル名をキーワードとして登録されたアダルトサイトやアイコラ（わいせつ画像にタレントの顔を付け替えた画像）サイトなどに入り込んでしまうことがあるからです。不用意にこのようなサイトに入らないためにも、事前のチェックと準備が必要です。また、生徒たちにはそのような危険性を持った道具（ツール）を使用しているのだという自覚を促すことが大切です。

Web ページには、人種、信条、性別、社会的身分、門地等による差別、暴力、性暴力、犯罪幫助、薬物乱用、売買春等に関する情報などのいわゆる有害情報を掲載しているものもあります。インターネットはグローバルな世界であるため、法規制が困難なものもあります。学校においては、フィルタリング（キーワードを含んだサイトは閲覧できないようにする、または指定したサイトだけを閲覧できるようにしたり、できないようにしたりするソフトウェア）を設定し、児童・生徒が安全な環境下でインターネットを利用できるよう配慮することが必要です。



校内スタートページのカスタマイズ

Web ページの閲覧では検索サイトは大変役に立ちます。ブラウザソフトのツールバーには [検索] というボタンがありますが、これにはごく限られた検索サイトしか登録されていません。よく利用する検索サイトを登録すればよいのですが、個人的に好きなサイトを共用して使う端末パソコンに登録することはあまりお勧めできません。また、検索サイトによってはブラウザソフトに独自のツールバーを提供するところもありますが、リース物件である端末パソコンに別のソフトウェアをインストールすることはできません。

学校情報ネットワークの端末パソコンでは、ブラウザソフトを起動したときに Firewall ユニット (SVFW01) 内にある、index.html を最初に読みに行きます。この HTML ファイルを書き換えて、いくつかの検索サイトや、学校でよく使う Web ページへのリンク先を登録すれば、ブラウザソフトを立ち上げると、ワンクリックで目的のサイトを閲覧することができます。また、この index.html にはメールやパスワードの変更などのメニューがありますが、外部に出るメールのアカウントを生徒に発行していない学校では、このメニューは必要がないかも知れません。そのようなときにもこの方法が使えます。

- (1) 目的の index.html は Firewall ユニット (SVFW01) の C ドライブの Apache フォルダの htdocs フォルダ内にあります。
- (2) index.html を別のフォルダにコピーするとともに index.org (org はオリジナルの意味) などの別名にして保存します。いつでも元に戻せるようにするために、最初に行います。
- (3) あとは基本的な HTML の知識があれば簡単です。index.html には Table タグと JavaScript が使われています。Web ページ作成の参考になります。

ソースの一部と画面例を次に示します。

```
<HTML lang="ja">
<HEAD>途中略
<TITLE> 高校生徒用スタートページ</TITLE>
</HEAD>
<BODY BGCOLOR="#F0F0F0">
<CENTER><H1>生徒用スタートページ
</H1></CENTER>
<HR>
途中略
<FONT SIZE="5"><B><FONT COLOR="#FF0000">お
すすめサイト集</FONT></B></FONT>
</P>
<TABLE border=1>
<TR><TD colspan=2 align=center><FONT
COLOR="#400080"><EM>検索サイト
</EM></FONT></TD></TR>
<TR>
<TD><A HREF="http://www.google.com/intl/ja/"
TARGET="_blank">G o o g l e</A></TD><TD>ロボ
ット型検索サイト。
</TD>
</TR>
...
<TD><A
HREF="http://www.enc.or.jp/enc/code/rule/index.htm"
TARGET="_blank">E N C</A></TD><TD>インターネ
ットを利用する人のためのルール & マナー集。</TD>
```





検索サイトの利用

- 1 本時の位置 LAN 教室のパソコンの扱いに慣れ、ブラウザソフトの基本的使い方を理解したのちに行う。日本語入力の方法については、習得していること。
- 2 指導目標 検索サイトについて、そのタイプ別特徴を理解させ、目的とする必要な情報を効率的に得る方法を習得させる。また、不適切な情報を検索したときに正しい対処の方法を身に付けさせる。
- 3 目標行動 目的にあった検索サイトの使い分けができる。ロボット型検索サイトを使う場合などで、適切なキーワードの設定ができる。
- 4 留意点 情報モラルの育成の観点から、次の事項を理解させる。
 - ・ 情報の取捨選択
 - ・ 有害情報
- 5 準備 授業で使用する登録型とロボット型の2種類の検索サイトを調べる。
- 6 展開

	学習内容	学習活動	留意事項	評価規準
導入	検索サイトの2つのタイプとその特徴	現在利用されている検索サイトにはどのようなタイプがあるかを知り、どのようなときにどれを使えばうまく情報が引き出せるかを考える。	検索サイトの使い分けと、キーワードの設定方法について理解しやすいような例を与える。	
展開	登録型検索サイト ロボット型検索サイト	登録型検索サイトを表示する。 例示された事柄について、順次階層をたどり、目的のページを表示する。 ロボット型検索サイトを表示する。	登録型検索サイトの URL またはリンクを示す。 生徒に分かりやすい例（「有名人の画像を探してみよう」など）を示し、それがどの階層下にあるかを考えさせる。 ロボット型検索サイトの URL またはリンクを示す。	登録型検索サイトの使い方を説明できるか。 目的のページにたどり着けたか。

展 開	キーワード検索の 実習	<p>キーワードを入力する。</p> <p>検索結果を確認する。</p> <p>キーワードの追加方法を話し合い、絞り込みを行い、その結果を確認する。</p>	<p>キーワードとして有名人の名前の入力を示す。</p> <p>有害情報の確認のために必要と判断した場合、教師機からページを表示する。</p> <p>絞り込みのためのキーワードの追加を考えさせる。なお、本時では And 検索のみを取り扱う。</p> <p>有名人の名前と同時に、公式サイト、オフィシャル等を And 検索のキーワードとして使用することを示す。</p> <p>例えば、職業の例を示し、情報検索を実習させる。ロボット型でキーワードひとつを入力した場合に出てくる結果にあわせて、生徒は常にこのような情報にさらされるのだと考えて指導する。</p>	<p>目的のページにたどり着けたか。</p> <p>適切に情報の取捨選択ができたか。</p> <p>ロボット型の場合に、適切なキーワードを設定できたか。</p> <p>目的に合わせた And 検索のキーワード設定ができたか。</p> <p>自分が知りたい情報に関して、検索サイトのタイプを選ぶことができるか。</p>
	目的に合わせた検索サイト	<p>事柄について、複数のキーワードを考えて入力し、結果を確認する。</p> <p>自分の目的に対しては、どちらの方が速く、使いやすかったかを評価する。</p>	<p>検索サイトの使い分けと情報の取捨選択について、整理する。</p>	<p>検索サイトの使い分けについて説明できるか。</p>
ま と め	まとめ	<p>検索サイトの使い分けと情報の取捨選択について、整理する。</p>	<p>検索サイトの特徴についてまとめ、キーワード設定の大切さを知らせる。</p>	<p>有効なキーワードの設定ができ、有害情報に対して、適切な態度がとれるか。</p>